昭和62年度 社団法人 東京建築士会

住　宅　建　築　賞

入賞作品

審査委員長　山下和正　　委　　員　足立丈夫，伊東豊雄，鈴木　恂，鈴木博之，曽根幸一，長谷川逸子，毛綱毅曠，山本理顕

特別賞入賞の岡田裕康氏をはじめ，入賞の海野健三，照井信三，吉井信幸，門脇直人の諸氏に心よりおめでとうを申し上げます。またおしくも入賞を逸した他の応募者の方々には，誠に残念でした。次の作品でぜひ再度チャレンジして下さい。と申し上げます。特に数点の作品は，入賞作品に決してひけを取らない素晴しいもので，落選とするには全くしのびないものでした。

62年度住宅建築賞の応募数は22点，昨年より若干減少しました。しかしながら，内容的にはレベルの高いものが多くなり，年々充実した作品の応募が定着して来たように感じられ，頼もしい限りです。組織の作品や，集合住宅の作品の応募も多くなり，それが入賞作品にも反映して来つつあるように思われます。

この住宅建築賞は，入賞数も5点内外と比較的多く，審査員も9名と多い上にキャラクターもまちまちで，結果的に多種多様な作品が入賞するように思われます。内容も住宅作品に限られているため，一般の建築賞の中では比較的カジュアルな賞といえます。

またこの賞の特色は，応募要項にもあるとおり，応募者である設計者ばかりでなく，建主や施工者も同時に記念の楯を贈って表彰することにあります。良い建築はひとりの設計者ばかりでなく，建築に理解のある建主，又は良い建築家を選び上手に使う（又はまかせる）ことのできる建主，さらには優秀な施工者が必須であることはいうまでもありません。良い作品を見学すると，ほとんどの場合これら三者の関係がうまくいっていて，建物の立派さというよりは，細部にも表れた心のこめられ方に感じるものがあるように思われます。

応募資格は，建築士であること以外何もなく（会員であるなしは無関係），応募方式も至って簡単となっていますので，来年もふるって応募又は応募を勧誘して戴きたいと思います。（山下　和正）

住宅建築賞特別賞

ASH
新井邸新築工事

岡田　裕康

マナ建築設計室㈱

建築主　新井　信義
施工者　㈱岩本組
竣　工　昭和61年6月
構　造　木造

外部との隔たりを，壁の遮蔽する力に素直に置き換え，私的空間を展開させた住宅である。

独立した柱梁架構からパネル構成の真壁への連続は，吹抜の効果と共に，伸びやかな社交・団欒の場となっており，大壁で守られた各個室と好対照をなしている。吹抜では，下り壁が南からの陽光を床に導わせ，東側凸部のトップライトが下り壁の向こうから光を降らせるといった演出が，安定した重心を与えており，敷地の傾斜を利用したフロアーレベルの変化を共に，空間構成のうまさを感じさせる。一方，真壁の柱廻り，コンクリート壁とのとりあい，雨樋の処理等細部の納まりも，奇をてらわずすっきり処理され，緊張感のある仕上りになっている。

また，パンチングメタルで目隠しされた布団干や樋込の腰壁と一体に造られた犬小屋，掃除道具入等，生活の場としての配慮がデザインされている点にも好感が持てる。ただ，屋根に生じた谷が，経年，支障をきたさないか心配は残る。

（審査委員　足立　丈夫）

住宅建築賞

M邸新築工事
花火を見る家

海野　健三

海建築家工房一級建築士事務所

建築主　丸山　晴子
施工者　海建築家工房
竣　工　昭和62年5月
構　造　鉄骨ALC造

下町のわずか8.5坪の角地に建つ海野氏の〈花火を見る家〉は必ずしも美しいデザインとは言えないし，一般常識で言う良いデザインとも言えない。壁面から持ち出している幾つもの出窓にしても，アルミサッシの上のカーブを描く薄い鉄板の小庇にしても，或いは不定形の開口や柔らかな水道ホースの把手を持つ玄関扉にしても，すべてそれらは奇妙な形態とすら言えよう。しかし，ほとんどすべてが海野氏の手づくり，もしくは直営工事によるこれらのエレメントの総体がつくり上げる住宅は，不思議な魅力と素朴な暖かさに溢れている。それらの各々が皮膚で住まい手と語り合っている。

（審査委員　伊東　豊雄）

住宅建築賞

安さんの家

照井　信三

建築研究所

建築主　河原　義一
施工者　旭ホームサービス㈱
竣　工　昭和62年7月
構　造　木造

全ての応募作品のなかで，この照井さんの作品が最も目立つ作品だった。図面だけでは一階部分がどう使われるかも分からないし，二階の住居部分のプランニングも決してうまいとは言えない。それでも人を引き付けるようなオリジナリティーがある。

どんなに上手にできた建築でも，作者の核の部分とでも言うのだろうか，オリジナルな部分が決定的に欠けていたら，それを〈作品〉などとは決して呼ばないだろう。まず，問われるべきなのは，オリジナリティーなのだと私は思う。

私たちが心配していた収まりの悪さのようなものも，実際に見せて貰って，意外と言ったら失礼なのだが，ほとんど破綻なく収まっていたし，一階の奇妙な場所も，新聞配達用の自転車置場と聞いて納得した。

照井さんの敢闘精神に一票。

（審査委員　山本　理顕）

住宅建築賞

テラス寺尾台

吉井　信幸

㈱竹中工務店　東京本店設計部

建築主　丸紅㈱　開発建設部
施工者　㈱竹中工務店　横浜支店
竣　工　昭和61年11月
構　造　RC造

土地がある。勿論馬鹿高い。でそこに知恵のかぎりを絞って住戸をつめ込む。いたるところでくりひろげられる開発ゲームだが，このプロジェクトには立派な解がある。拝見して解ったのは，南斜面でもない土地だから，傾斜に直交する棟建て長屋だということだ。玄関廻りから洗濯場に至るまでの細かな配慮や，カラーコーディネートはさすがなもの。難を言えば外部階段だろう。斜面住宅は，住戸の重ね方につられて勾配が急になる。勿論細部に工夫はある。が10層にもなると，眼下げ眼上げの感覚は相当なもの。中間部に視線を遮る樹木などが欲しくなるが無理な注文か。

斜面緑地がつぶされるのは，都市景観上はあまり好ましいことではない。がそれはそれでここでの本題ではない。

（審査委員　曽根　幸一）

住宅建築賞

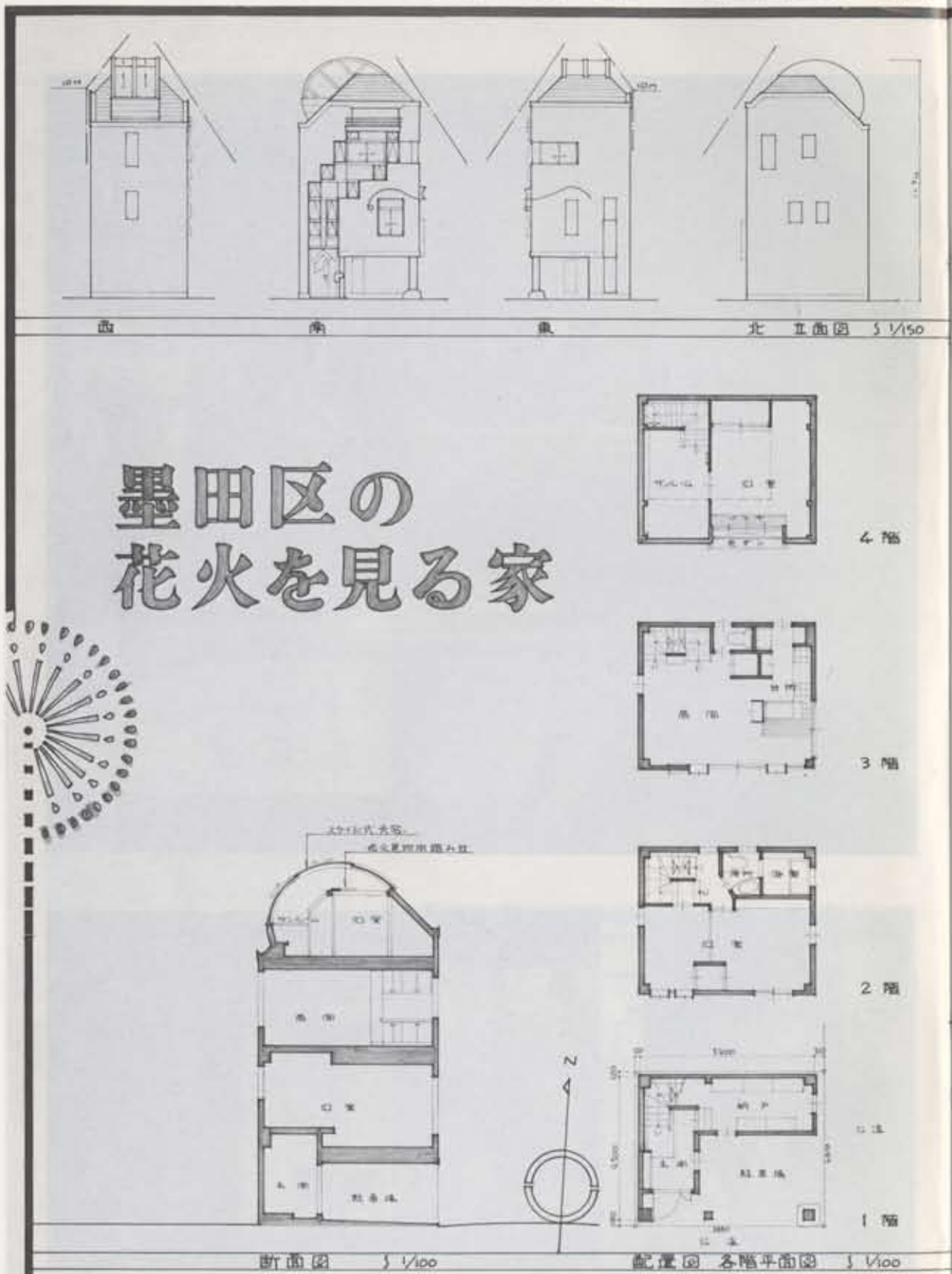
HIMONYA GARDENS

門脇　直人

鈴木エドワード建築設計事務所

建築主　小山　俊治
施工者　清水建設㈱　建築第4部
竣　工　昭和62年4月
構　造　RC造

意表をつくようなカーブする壁や傾斜的なファサードは道路沿いのみで，総体は押えたデザインで丁寧にまとめられているといった印象の方が強い。路地風に扱われた廊下のネットワークは，その質素な材料の巧みな利用方法と相俟って，不整形で高低差のある地形や既存の樹木を活かすために，大変個性的な解決策である。一住戸3階という重層構成は，面積200㎡余という住宅規模だから可能なことではあるが，それによって得られた住戸の開放性と独立性の両方によい結果をもたらしている。よく計算されて配置されている庭やテラスの大胆な構成にこの集合住宅の意欲を見ることができる。

（審査委員　鈴木　恂）

住宅建築賞　M邸新築工事・花火を見る家　海野　健三　　海建築家工房一級建　築士事務所